

固定電話網の円滑な移行の 在り方について

平成28年5月13日



一般社団法人
全国銀行協会

目次

1. 銀行のシステム等におけるISDNの利用用途
2. 銀行の取引先への影響
3. 接続対応策(代替策)の必要性
4. 利用者保護
5. 円滑な移行の在り方

1. 銀行のシステム等におけるISDNの利用用途

(1) EB/FB(エレクトロニックバンキング/ファームバンキング)

金融機関が提供する企業向け決済サービスであり、その通信回線にISDNを利用。

※ EB/FBの特長(インターネットバンキングとの違い)

ISDNまたは一般公衆電話網を使って、企業側のホストサーバまたはパソコン(専用ソフトウェア)から銀行のホストサーバに接続することにより、総合振込や給与振込等の大量データを一括伝送するサービス。大企業での利用が多い。

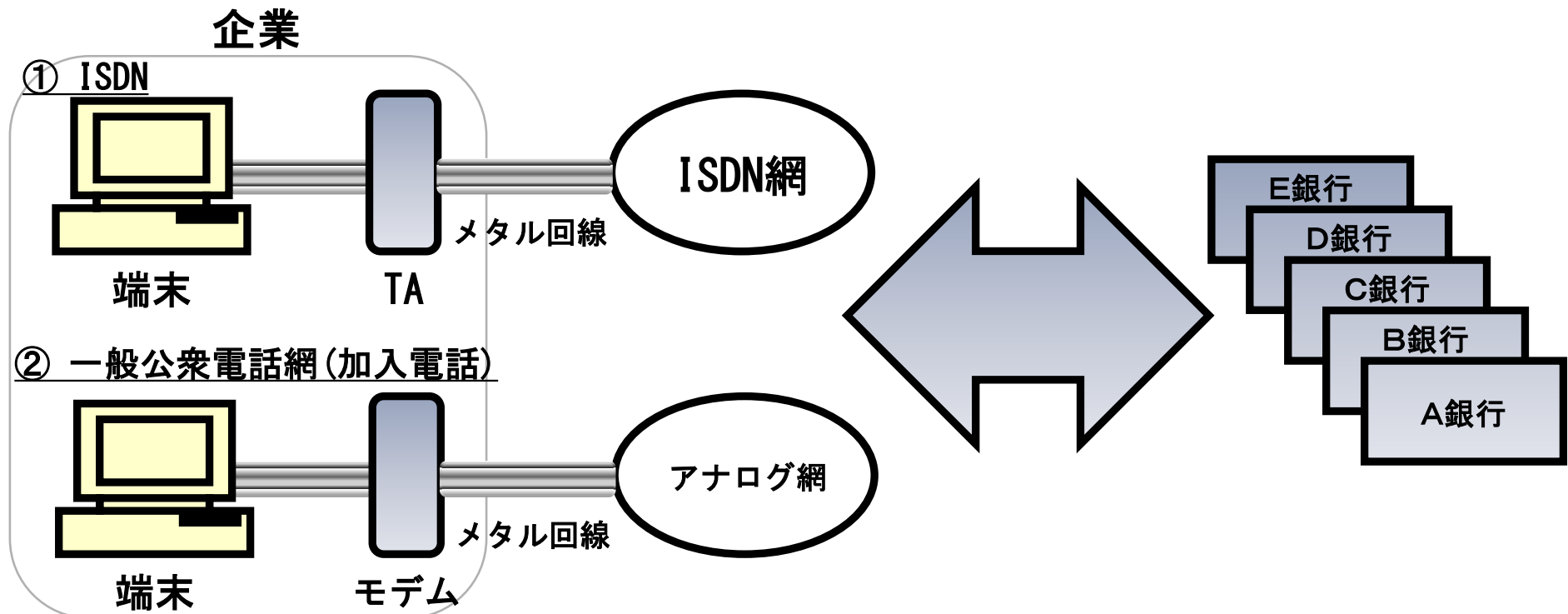
(2) その他

- ① 行内ホストシステムのリモート監視(個別システム単位)
- ② 各種システムおよび店舗外ATM出張所のバックアップ回線
- ③ ATMオートフォン(監視用) 等

2. 銀行の取引先への影響

(1) EB/FBの接続イメージ

現在、EB/FBにおいて利用されている主な回線網は、全銀協標準通信プロトコルで定めているISDNまたは一般公衆電話網である。



(2) EB/FBにおけるISDNの利用状況

① 利用(契約)者数

3メガバンクの延べ数: 約10万先

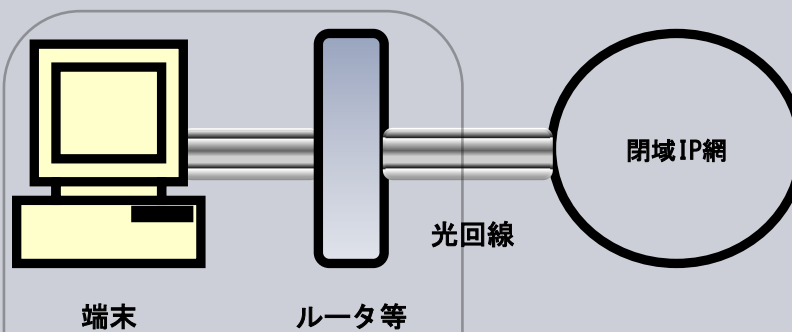
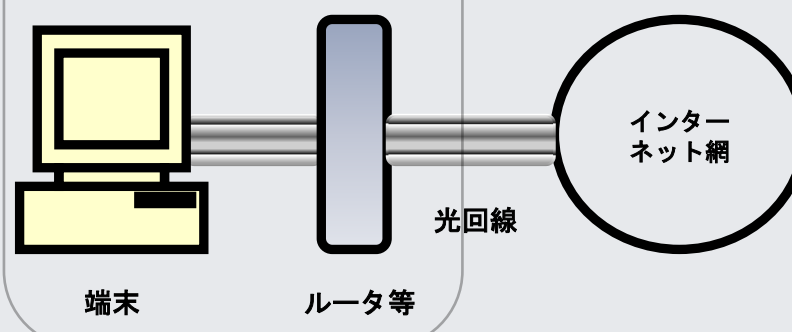
② 月間取引(処理)件数

(照会取引(残高照会、入出金明細照会)等も含む)

3メガバンクの延べ数: 約1億件

(注) 延べ数には、複数のメガバンクと取引がある企業を含む。

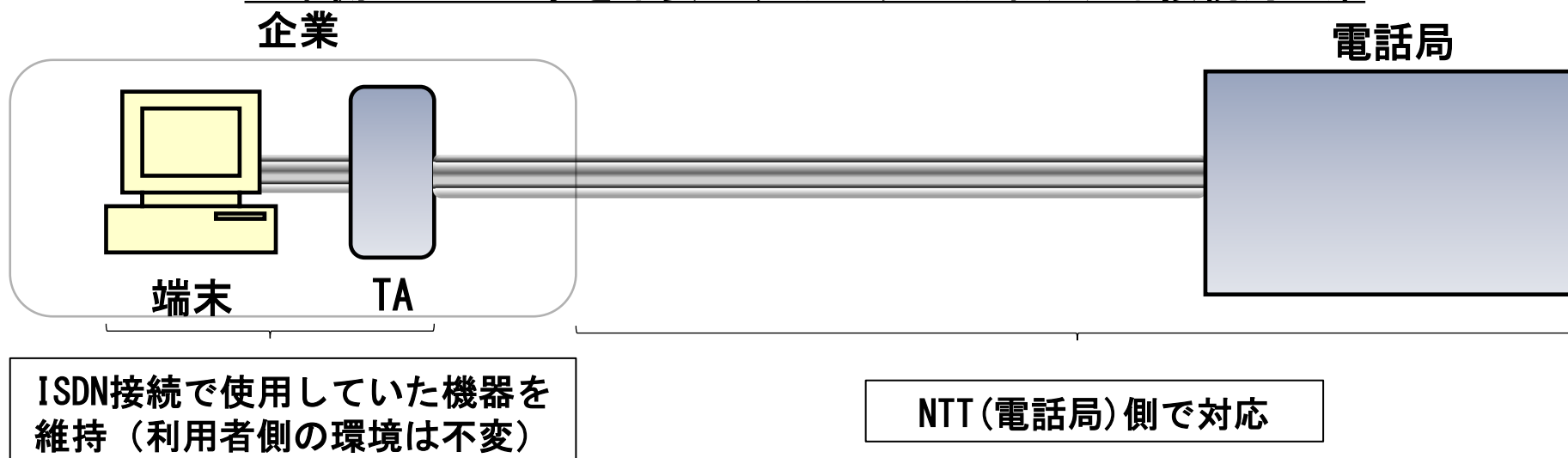
(3) ISDN提供終了に向けての主な移行パターン(案)

No	アクセス網	接続イメージ	必要な対応	課題・問題点等
1	閉域IP網	企業  端末 ルータ等 光回線 閉域IP網	● 必要な機器の準備 ● ソフトウェア、プログラムの変更 ● 接続テスト ● ISDNから閉域IP網への契約変更 ● アクセス回線(光回線)の契約	● 接続相手先と同一の通信事業者が提供するサービスを利用する必要あり ● 光回線の提供範囲外の地域への提供不可 ● 必要な機器の導入費用、回線利用料等のコスト負担
2	インターネット	 端末 ルータ等 光回線 インターネット網	● 必要な機器の準備 ● ソフトウェア、プログラムの変更 ● 接続テスト ● ISDNからインターネットへの契約変更 ● アクセス回線(光回線)の契約 ● インターネットサービスプロバイダとの契約	● 通信相手先と実装するセキュリティ対策を調整する必要あり ● 必要な機器の導入費用、回線利用料等のコスト負担

3. 接続対応策(代替策)の必要性 — 事業者の改修負担軽減 —

- 移行に係る対応は多岐に渡り、相応の期間を要する。
- そのため、移行が間に合わず、企業側の最重要業務の一つである決済取引が途絶することのないよう、現状の接続環境・機器を維持するとともに、宅内工事を行う必要がない以下のような接続対応策(代替策)が必要となる。

企業側の宅内工事を不要とするドラスティックな接続対応策



4. 利用者保護

■ 「継続性」の観点

ISDNと同等の通信品質が保証され、EB/FBの継続利用が可能な代替回線、あるいは救済策の提供が必須

■ メタルIP電話移行後の通信品質の確保

IP網に移行しても、ISDNと同等の通信品質を確保することが重要（通信速度や通信容量が向上しても、データの欠落や破損が発生してはならない）

■ 関係事業者間の検討・取組

接続相手先が自社と異なる通信事業者のサービスを利用している場合であっても制約（通信不可、品質低下等）が発生しないよう、関係する通信事業者間において利用者の利便性を損なわないようにするための検討・取組が必要

5. 円滑な移行の在り方

■ 十分な移行期間

回線の移行には、必要な機器の準備、ソフトウェアの変更、テスト等に相応の期間および費用が発生することから、平成32年度(2020年度)後半までに全利用者が移行を完了させることは困難

■ 移行スケジュールの提示

ISDNの提供終了に伴う影響範囲の把握、代替回線のフェージビリティ等の事実確認をしたうえで、全利用者に対し、納得性、実現性のある移行スケジュールを提示することが必要